



政治のホンマを伝えるチラシ

月刊レオナンドス通信

www.nakanishireo.com/

平成22年3月号 発行：中西レオ応援団

職員の退職金が払えずに

借金します 14億円!!

明石市は平成21年度3月補正予算で14億円の退職手当債を発行するという。退職手当債とは、団塊の世代の大量退職で自治体の支出が退職金に圧迫されるので、総務省が発行を認めた借金です。明石市の平成21年度の退職者数は111人で退職金総額が約27億円です（平均約2400万円/人）。いままで明石市は退職手当債を発行せずに平成20年の退職者のピーク（退職者124人、退職金約30億円）を乗り越えてきました。しかし、21年度は景気悪化による税収減が予想以上だったので、借金をするというのです。景気悪化は平成20年から始まっていたのですから、「これくらい次の年度の税収が下がるだろう」という見通しが甘かったのです。根本的には、今までの市の貯金を使い過ぎて、今回のように本来緊急で使わなければならぬときのお金を残しておかなかったギリギリの財政運営に問題があります。

人件費を払えずに借金をするということは、次の世代に対して何も残らないものの支払いを回すということなのです。子や孫の世代に残る橋や建物ですら、「僕達は望んでないのに進められた工事の代金をなんで払わなければならないんだ!」と叫んでいるのに、「僕達の時代に何も残らないものの支払いが回ってくるなんて理不尽だ!」と叫ばれてしまいます。

貯金の残高は大変厳しいものになりますが、今回は市の基金から退職金を出すべきとして、中西レオと2名の議員で補正予算案に対する修正案（対案）を出しましたが3対27で敗れてしまいました。考え方は色々あることでしょうが、納税者である明石市民のみならずこの実態を知っていただきたいと思います。

中西レオの提案するキーワードは「今は緊縮ですが、3年後に攻めに転じましょう!」明石市長の出したキーワードは「暮らしを守り、未来を拓く」です。

今あるものを活かす予算を

現在、明石市の借金は全部で2000億円近くあり、貯金は数十億円しかありません。そんな中で、役所が一手に公を担い、サービスを提供して肥大化するよりも、将来にわたって持続可能なシステムを作る努力を



今のうちにする必要があります。中西レオは「明石を守るために役所のつくりを変えよう。議会は根本的に変えよう。市民は意識を変えよう。」と訴えています。

新! 新駅案浮上!!



市は22年度に明石～西明石間および大久保～魚住間の新駅設置について、公共交通の利用促進を考えていく研究会を立ち上げます。大久保～魚住間は、市街化調整区域（開発できないエリア）が多く、農業振興地域（農地以外の利用が厳しく制限されているエリア）もあるため、現実味が薄い計画です。そもそも、主権者である市民が明らかに反対の意見を持っているのだから、明石～西明石間も含めて新駅は建設すべきではありません。自然を壊してでも開発をすれば街が発展するという考えは既に古いものです。

今度は大久保～魚住間

市は22年度に明石～西明石間および大久保～魚住間の新駅設置について、公共交通の利用促進を考えていく研究会を立ち上げます。大久保～魚住間は、市街化調整区域（開発できないエリア）が多く、農業振興地域（農地以外の利用が厳しく制限されているエリア）もあるため、現実味が薄い計画です。そもそも、主権者である市民が明らかに反対の意見を持っているのだから、明石～西明石間も含めて新駅は建設すべきではありません。自然を壊してでも開発をすれば街が発展するという考えは既に古いものです。

明石市
議会議員

中西レオの活動報告